

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 愛媛県松山市立新玉小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒790-0001
愛媛県松山市千舟町八丁目89番地
E-mail ara-eof@esnet.ed.jp
Website http://aratama-e.esnet.ed.jp/
幼児児童生徒数 男子275名 女子251名 合計526名
幼児・児童・生徒の年齢6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

「地域を学び、地域と共に生きる力」を育成することを目標に、地域の人と関わり、いろいろな考え方に学び、新しい発見や今までとは違った見方・考え方をしながら自分にできることを考え実践する活動を、生活科、総合的な学習の時間を中心に行った。①愛着のある地元地域をフィールドに、どの学年も実態に応じたテーマを設定し、課題解決に向けて、児童が主体的に学習を行っている（地域を学び、地域と共に生きる活動）のが特徴である。

この各学年のテーマに応じた学習に加え、②アフリカのモザンビーク共和国【以下：モザンビーク】と関連のある学習を多くの学年で行っている。今年度で11年目を迎えており、本校の特色となっている学習である。NPO法人えひめグローバルネットワークをはじめ、地域、大学、企業、団体等多様な方とのつながりが定着し、専門的な知識や豊富な経験等を生かし、③他にも、様々な体験やつながりを重視した活動を展開することができるようになってきている。

① 地域を学び、地域と共に生きる活動（2学年抜粋）

〈第3学年：見つけよう新玉のすてきな人 めざそうすてきな自分〉

地域の「すてきな人」を見付け、交流し、自分もすてきな人になっていこうという学習活動。子どもたちは、すてきな人を「努力する人」「優しい人」「地域を愛する人」「信頼される人」などと感じ取った。そして、「すてきな人たくさんの地域」の一員としての「すてきな自分」を目指す実践を行った。「豊職人の〇〇さんのような努力をする人を目指す。」等、一人一人がよりよい自分に向かって、頑張ることができた。地域の方の生き方を3年生なりに自分の生活とつなげていこうとする姿が見られた。

〈第5学年：あらたま100年ものがたり〉

「俳句」や「子規」との出会いをきっかけに、松山や自分たちの地域の魅力を再発見していく学習を行った。ふるさとのすばらしさや、そこに关わる人たちの思いにふれる中で子どもたちのふるさとを自慢に思う気持ちは高まり、「伝えたい、残したい」思いを様々な方法で発信してきた。愛媛大学や坂の上の雲ミュージアム、考古館やまつやまはいく等、松山市や地域の多くの方々との出会いと協力により、ふるさとを思う気持ちやよりよい未来を自分たちの手で創っていこうという思いが、子どもたちに育まれた。



①道後で松山の魅力を伝える

② モザンビークと関連のある活動

〈第3学年「モザンビークと出会おう」〉

モザンビークの方と関わりながら、モザンビークの音楽や踊り、言葉に親しんだ。留学生の方に握手をしていただいたときの手の大きさと温かさが心に残った子どもも多かった。モザンビークや他の国のことが知りたいという思いが芽生えた。

〈第4学年「モザンビークと仲良くなろう」〉

モザンビークの暮らしについて学び、ESDのダンス(SDGs)を教してもらった。ダンスは学年全員で楽しく踊り、DVDに編集した。そして、DVDをモザンビークに届けていただき、ダンスを通してモザンビークの子どもたちと交流した。

〈第5学年「モザンビークの食を知ろう」〉

モザンビークや世界の食糧事情、食品ロス等についての話を聞いた。また、えひめグローバルネットワークの竹内氏たちが長年関わり建設されたモザンビークの公民館についても様子を聞いたり、モザンビークの子どもたちが描いた絵やメッセージをいただいたりして、6年生に向けて、自分たちにできることを考えることができた。

〈第6学年「自分らしい生き方をえがこう」〉

「本当の平和」について考えていく過程で、体験型ワークショップ「ハンガーバンケット」を行った。世界の格差を疑似体験することを通して、不平等さを感じ取り、自分たちにできることを考え、話し合いをした。さらに、モザンビークの現状を聞き、自分たちの生活は当たり前ではないこと、世界には不公平や不平等があることを改めて感じ取っていた。

あらゆる人々が平和な日々を送ることができる持続可能な社会を実現することの大切さを考え、自分の生き方を見つめ直し、誰かのためにできることを実践していこうとする学びを方向付ける重要な活動となった。その後、6年生は、モザンビーク支援やカンボジア地雷撤去のための募金活動を行った。

いずれの活動にも、NPO法人えひめグローバルネットワークの竹内氏に関わっていただき、本校の国際理解教育の学びを深めていただいている。



②モザンビークの方と握手

③ 様々な体験やつながりを重視した活動

〈ESD委員会の活動〉

ESD委員会は、平成28年度から発足した。ユネスコスクールやESD、モザンビークの現状等について学び、全校に伝える活動を行った。また、ESDの考え方を実践し、「服のチカラプロジェクト」や「書き損じはがき集め」に参加した。なぜ、これらの活動が行われているのかを学び、全校の人に知らせることを大切にすることで、ESDの考え方が広がっていった。



③服のチカラプロジェクト

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・ ひろがりつながる ESD 実践事例
- ・ ユネスコスクール公式ウェブサイト

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESD で目指す児童像を「自分ごととして捉え、自分にできることを考えて行動する児童」「課題に対して、多様な人々と力を合わせて解決し、よりよい未来をつくろうとする児童」と設定した。

このこども像を目指し、生活科・総合的な学習の時間を中心として、「多面的・総合的に考える力」「コミュニケーションを行う力」「つながりを尊重する態度」を、重視して授業づくりを行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度始めの校内研修会で、ESD についての研修を実施し、全教職員での共通理解を図っている。

3年生から6年生までが、系統立てた国際理解の年間指導計画を作成し、NPO 法人えひめグローバルネットワークと活動計画を共有し、学習を構想している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

特色ある学校づくり推進委員や学校評価における保護者からも、地域に根付いた学習活動において地域を愛する児童を育てることや、国際理解の学習において視野を広げていくことに対して、概ねよい評価を得ており、今後も、活動内容を精選しながら進めていく。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

本年度は、松山市内の教職員対象に行われる松山市教育研究協議会の会場校として、ESD の視点を意識した生活科・総合的な学習の時間の授業を公開した。また、掲示物等でも発信した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

モザンビークを中心とした世界の現状等については、NPO 法人えひめグローバルネットワークと協働している。
地域に根差した学習においては、愛媛大学や坂の上の雲ミュージアム、考古館、社会福祉協議会、盲導犬協会、松山中央図書館などの機関と連携。JA えひめ、愛媛学園、ユニクロ等にも協力を仰いでいる。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

新居浜市の小学校との交流を試みようとしたが、機会を捉えられなかった。また、本校の取組が十分ではなかったため、見合わせた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

地域とのつながりを重視した学習活動を展開したことで、地域の教育力の高さを、児童、教員、保護者共に実感した。

また、ユネスコスクールに関連した学習活動に関する保護者向けの文書により、保護者の意識も変わった。特に、児童が作成する募金や服のチカラプロジェクト、書き損じはがき回収等に関するお願いの文書によって、国際的な事柄に関心を示す保護者が増えた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

①地域を学び、地域と共に生きる活動については、平成 29 年度の学習活動を基に、内容を精選・修正したり、さらに新しい取組を導入したりしながら、地域とつながりを深めながら、より充実した学習活動を展開する。

②モザンビークと関連のある活動については、これまでの交流の経緯を大切にしながら、学年で系統立てて継続していく。

③様々な体験やつながりを重視した活動については、児童の主体的な活動を中心にして、進めて行く。JRC委員会とESD委員会との連携を取りながら活動を行っていく。